

千葉県県営林SGEC森林管理計画書に基づくモニタリング調査野帳

調査地No.	南部一 1				
調査箇所名	市町村	経営区	団地名	林班	小班
	鴨川市	南部 I 区	嶺岡県有林	1	ろ
調査日時	令和3年4月15日9時45分				
調査者					
主な樹種、林齡	スギ3年生（平成31年3月植栽、0.42ha） スギ1年生（令和3年3月植栽、0.40ha）				
実施作業種	再造林（0.40ha）	作業前・後	作業後		
主な施業履歴	実施年月	施業概要			実施面積
	平成28年2～3月	搬出間伐			2.94ha
	平成30年1月～平成31年3月	主伐・再造林			0.42ha
	令和元年9～10月	下刈1回刈			0.42ha
	令和2年2～3月	主伐			0.40ha
	令和2年7～8月	下刈1回刈			0.42ha
	令和3年3月	再造林（0.40ha）・補植（0.42ha）			0.82ha

区分	チェック項目と視点		写真撮影
生物多様性の保全	施業箇所の状況	下草植生の発達が進んでいるか。	No. 1 No. 2 No. 3
		全面において草本、陽樹等による植生の回復が認められる。	
広葉樹等の保全状況	伐採施業地及びその周辺において、生物の生息の場となる倒木、巣巣木、樹洞のある木、人工林に侵入した広葉樹等について施業に大きな支障のない限り積極的に残置しているか。	No. 4 No. 5	
	林内及び林縁の広葉樹（ヤマガラ、スタジイ等）は主伐の際、搬出作業の支障となることから伐採したが、現在は萌芽による再生が認められる。また、造林木の成長に支障のない広葉樹については、下刈の際に極力残置した。		
希少種の生育状況、外来種の進入状況	どのような植物が自生しているか。保護すべき希少種や駆除すべき外来種が含まれていないか（種が同定できるものを記録すると共に、種が不明のものについても可能な範囲での同定に努める）。	No. 6 No. 7 No. 8 No. 9	
	カラスザンショウやタラノキ、アカメガシワ、ニワトコ等の陽樹の稚樹が散在している。地表はタマアジサイやモミジイチゴ等の低木に加え、ススキやシャガ、イタドリ等のほか、ゼンマイやリヨウメンシダ等のシダ類が再生し覆っている。		
環境負荷軽減	地表面の保護	作業道や一時利用の集材路の開設においては、地表面の切削、土砂の移動は必要最低限とするよう努めているか。	No. 10
		主伐作業時に、地表面の切削を最小限にすることから、現在も特段の地表面のかく乱は認められない。	
水質汚濁の防止	作業道や一時利用の集材路の開設においては、波型縦断勾配の採用及び横断排水施設の設置を行い、路面水は極力分散排水するよう努めているか。	No. 10	
		作業道作設に当たっては、土砂掘削量を最小限にすることから、現在も地表流による顕著な土砂移動は認められない。	
生態系の健全性の維持	伐採後の適切な更新、保育	①植栽地の生育は良好か。 ②補植が必要な場合は実施されているか。 ③必要な保育が適期に実施されているか。	No. 11 No. 12
	①生育状況	造林木の生育は良好である。	
病害虫被害、気象害、獣害被害の発生状況	②補植	補植の必要はない。	
	③適期施工	再造林は適期（3月）に実施した。	
その他	その他	対象外	
病害虫被害、気象害、獣害被害の発生状況	①病害虫被害	なし	No. 13 No. 14
	②気象害	なし	
③獣害		造林木ではノウサギ食害が1本認められたが、過年度確認されたものと同一であり、新規被害は見られなかった。クズ等が生育する範囲ではイノシシによる掘り返しが一部見られた。	
	その他	なし	

千葉県県営林SGEC森林管理計画書に基づくモニタリング調査野帳
【状況写真】

調査地No.	南部一 1	調査日	令和3年4月15日
--------	-------	-----	-----------

No.	写真	説明
1		全景1 令和2年3月主伐 令和3年3月植栽範囲
2		全景2 令和3年3月植栽範囲（右）と 平成31年3月植栽範囲（左）の 境界部
3		全景3 平成31年3月主伐・植栽範囲
4		広葉樹等の残置状況 (ヤマグワ)
5		広葉樹等の残置状況 (スタジイ)

6		下層植生の状況 (アカメガシワ)
7		下層植生の状況 (モミジイチゴ)
8		下層植生の状況 (シャガ)
9		下層植生の状況 (リョウメンシダ)
10		一時利用の集材路の状況

11		造林木の状況 平成31年3月植栽個体
12		造林木の状況 令和3年3月植栽個体
13		ノウサギ被害状況 令和2年12月調査時と同一個体 新規の被害個体はみられない
14		イノシシ被害状況 (掘り返し)